



# 更年期障害

知っておきたい  
漢方4処方



頭重、頭痛、めまい、  
肩こり、貧血

筋肉が一体に軟弱で  
疲労しやすく、  
腰脚の冷えやすいもの  
の次の諸症

**更年期障害\*、  
倦怠感に**

**23** ツムラ当帰芍薬散  
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



不眠、イライラ、  
頭痛、めまい、  
上半身の灼熱感  
など\*

体質虚弱な婦人で  
肩がこり、疲れやすく、  
精神不安などの  
精神神経症状、ときに  
便秘の傾向のある次の諸症

**更年期障害、冷え症、血の道症に**

**24** ツムラ加味逍遙散  
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



のぼせ、頭痛、  
めまい、肩こり、  
足の冷え\*

体格はしっかりして赤ら顔が多く、  
腹部は大体充実、下腹部に抵抗のあるもの  
の次の諸症

**更年期障害\*、月経困難に**

**25** ツムラ桂枝茯苓丸  
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



冷え症の人で、  
手掌のほてり、  
口唇の乾燥、  
下腹部の冷え、  
痛みなど\*

手足がほてり、  
唇がかわくもの  
の次の諸症

**更年期障害、不眠、湿疹に**

**106** ツムラ温経湯  
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

\*使用目標=証 監修:大塚恭男、花輪壽彦(北里大学) 裏面参照

\*ツムラ当帰芍薬散の効能又は効果:更年期障害(頭重、頭痛、めまい、肩こり等)、  
ツムラ桂枝茯苓丸の効能又は効果:更年期障害(頭痛、めまい、のぼせ、肩こり等) 裏面をご参照下さい。

当帰芍薬散・加味逍遙散・桂枝茯苓丸は  
「心身症 診断・治療ガイドライン2006」「産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編2014」に掲載されています。(推奨レベルB/C)  
(日本心身医学会、日本産婦人科学会・日本産婦人科医会)

# 23 ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒(医療用)

## 効能又は効果

筋肉が一体に軟弱で疲労しやすく、腰脚の冷えやすいものの次の諸症：貧血、倦怠感、更年期障害（頭重、頭痛、めまい、肩こり等）、月経不順、月経困難、不妊症、動悸、慢性腎炎、妊娠中の諸病（浮腫、習慣性流産、痔、腹痛）、脚気、半身不随、心臓弁膜症

## ＜参考証に関わる情報＞ 使用目標＝証\*

比較的体力の低下した成人女子に用いられることが多く、一般に冷え症で貧血傾向があり、性周期に伴って軽度の浮腫、腹痛などを呈する場合に用いる。  
1) 全身倦怠感、四肢冷感、頭痛、めまい、耳鳴、肩こり、心悸亢進などの症状を訴える場合。  
2) 無月経、過多月経、月経困難など、月経異常のある婦人。

(2014年10月改訂)

# 24 ツムラ加味逍遙散エキス顆粒(医療用)

## 効能又は効果

体質虚弱な婦人で肩がこり、疲れやすく、精神不安などの精神神経症状、ときに便秘の傾向のある次の諸症：冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症

## ＜参考証に関わる情報＞ 使用目標＝証\*

比較的虚弱な人で疲労しやすく、精神不安、不眠、イライラなどの精神神経症状を訴える場合に用いる。  
1) 肩こり、頭痛、めまい、上半身の灼熱感、発作性の発汗などを伴う場合。  
2) 心窩部・季肋部に軽度の抵抗・圧痛のある場合。(胸脇苦満\*) \*1 胸脇苦満：心窩部より季肋部にかけて苦満感を訴え、抵抗・圧痛の認められる症状をいう。  
3) 性周期に関連して上記精神神経症状を訴える場合。

## 使用上の注意(抜粋)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等があらわれることがある。](2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれている

## 使用上の注意(抜粋)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等があらわれることがある。](2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。 3.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

| 頻度不明               |                             |
|--------------------|-----------------------------|
| 過敏症 <sup>※1)</sup> | 発疹、痒疹等                      |
| 肝臓                 | 肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)の上昇) |
| 消化器                | 食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等     |

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

ので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)サンシ含有製剤の長期投与(多くは5年以上)により、大腸の色調異常、浮腫、びらん、潰瘍、狭窄を伴う腸間膜静脈硬化症があらわれるおそれがある。長期投与する場合には、定期的にCT、大腸内視鏡等の検査を行うことが望ましい。(4)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。 3.相互作用 併用注意(併用に注意すること)

| 薬剤名等                                    | 臨床症状・措置方法   | 機序・危険因子   |
|---|---|---|
| (1)カンゾウ含有製剤<br>(2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 | 偽アルドステロン症があらわれやすくなる。<br>また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照) | グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。 |

4.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。(2)ミオパチー：低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3)肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTP等の著しい上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。4)腸間膜静脈硬化症：長期投与により、腸間膜静脈硬化症があらわれることがある。腹痛、下痢、便秘、腹部膨満等が繰り返しあらわれた場合、又は便潜血陽性になった場合には投与を中止し、CT、大腸内視鏡等の検査を実施するとともに、適切な処置を行うこと。なお、腸管切除術に至った症例も報告されている。

| 頻度不明               |                         |
|--------------------|-------------------------|
| 過敏症 <sup>※1)</sup> | 発疹、発赤、痒疹等               |
| 消化器                | 食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等 |

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2018年2月改訂)

# 25 ツムラ桂枝茯苓丸エキス顆粒(医療用)

## 効能又は効果

体格はしっかりしていても赤ら顔が多く、腹部は大体充実、下腹部に抵抗のあるものの次の諸症：子宮並びにその付属器の炎症、子宮内膜炎、月経不順、月経困難、帯下、更年期障害（頭痛、めまい、のぼせ、肩こり等）、冷え症、腹膜炎、打撲症、痔疾患、睾丸炎

## ＜参考証に関わる情報＞ 使用目標＝証\*

体力中等度もしくはそれ以上の人で、のぼせて赤ら顔のことが多く、下腹部に抵抗・圧痛を訴える場合に用いる。瘀血\*2に伴う諸症状に用いる。  
1) 頭痛、肩こり、めまい、のぼせ、足の冷えなどを伴う場合。  
2) 無月経、過多月経、月経困難など月経異常のある婦人。

\*2 瘀血：漢方の一概念で主として婦人科疾患、出血性疾患などに起こり、静脈系のうっ血、出血などに関連した症候群をいう。(日本医師会発行、医薬品カードより)

(2007年5月改訂)

# 106 ツムラ温経湯エキス顆粒(医療用)

## 効能又は効果

手足がほてり、唇がかわくものの次の諸症：月経不順、月経困難、こしけ、更年期障害、不眠、神経症、湿疹、足腰の冷え、しもやけ

## ＜参考証に関わる情報＞ 使用目標＝証\*

比較的体力の低下した冷え症の人で、手掌のほてり、口唇の乾燥、下腹部の冷え、痛みなどを訴える場合に用いる。  
1) 性器出血、月経異常、不妊などのある婦人。  
2) 上記症状は、性周期に関連して消長することが多い。

## 使用上の注意(抜粋)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等があらわれることがある。](2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体

## 使用上の注意(抜粋)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)著しく体力の衰えている患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。] 2.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。 3.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(2)その他の副作用

| 頻度不明               |                   |
|--------------------|-------------------|
| 過敏症 <sup>※1)</sup> | 発疹、発赤、痒疹等         |
| 消化器                | 食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等 |

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2013年3月改訂)

質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。 3.相互作用 併用注意(併用に注意すること)

| 薬剤名等                                    | 臨床症状・措置方法   | 機序・危険因子   |
|---|---|---|
| (1)カンゾウ含有製剤<br>(2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 | 偽アルドステロン症があらわれやすくなる。<br>また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照) | グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。 |

4.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。(2)ミオパチー：低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。(2)その他の副作用

| 頻度不明               |                   |
|--------------------|-------------------|
| 過敏症 <sup>※1)</sup> | 発疹、発赤、痒疹、蕁麻疹等     |
| 消化器                | 食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等 |

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2013年3月改訂)

※使用目標＝証 監修：大家恭男、花輪壽彦(北里大学)

■ 用法及び用量：通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。  
 ■ 日本標準商品分類番号：875200 ■ 薬効分類名：漢方製剤 ■ 取扱い上の注意：(貯法)しゃ光・気密容器/(使用期限)容器・外箱に表示  
 ■ 製造販売会社：株式会社ツムラ  
 ・ 組成・性状、その他の使用上の注意(高齢者への投与・妊婦、産婦、授乳婦等への投与・小児等への投与)、包装、関連情報(承認番号、薬価基準収載年月、販売開始年月等)については製品添付文書をご覧ください。「使用上の注意」等の改訂には十分ご留意下さい。

(2012年10月制作)  
(2018年2月改訂)

PSD012 (審)



〒107-8521 東京都港区赤坂二丁目1番11号 <http://www.tsumura.co.jp/>  
お客様相談窓口 Tel.0120-329-970